

第13回胚細胞呼吸測定装置研究会(第7回厚生労働省班会議)が平成26年9月28日(日)ホテル金沢で開催されました。パナソニックヘルスケア社より試作機器の開発状況、東北大学よりヒト余剰卵を用いた第1回予備実験の結果、対象症例の同意取得状況、各協力施設での倫理申請について、今後の予定(臨床研究、学会報告など)について報告がなされました。予備実験の報告について、プレート内に生じる気泡等の問題、測定条件、測定結果について活発なディスカッションが行われました。また、インキュベータに胚細胞呼吸測定装置とタイムラプス装置を組み込んでみてはよいのではないか、胚細胞呼吸測定を行った後にミトコンドリア、胚盤胞の細胞数について観察すると新しい知見が得られるのではないかなど、たくさんのアイデアが出されました。今後、10月、12月と予備実験が行われ、年明けからはいよいよヒト余剰卵を用いた本実験が始まります。今年は厚労科研のしめくくりの年であり、実用化に向け結果を出せるよう、東北一丸となって研究を進めていきます。次回開催は来年3月に仙台です。

